

# 記紀神話におけるスサノオとツクヨミ

菊地照夫

## はじめに

・古事記と日本書紀…8世紀（奈良時代）に編纂された天皇支配の正統性を物語る歴史書  
→神話（神代史）から説き起こす…天地・万物の創成、神々の出現～初代天皇の誕生

・古事記上巻、日本書紀巻一・二が神代＝記紀神話

→古事記の神話 日本書紀本文の神話 日本書紀一書の神話

→個別神話を接続、合成して神代史を構成

・記紀神話＝8世紀の編纂物、しかしその形成過程の解明は可能

→記紀神話の形成過程に王権の発展、国家形成のプロセスがどう反映されているか

例：アマテラスの問題

日本の古代王権はなぜ太陽神を最高神とするか？／アマテラスとはいかなる神か？  
／アマテラスはどのような過程で最高神となったか？／伊勢神宮はどのような神社  
でいつから王権最高神としてアマテラスを祭るようになったか？／なぜ王権最高神  
の太陽神を祭る神社が伊勢にあるのか？…実は何もわかっていない

・溝口睦子の記紀神話二元構造…近年の大きな成果

→記紀神話＝アマテラス系とタカミムスヒ系のそれぞれ独立した神話群を一系化したもの

→アマテラス系…イザナキ・イザナミ神話、ウケイ神話、天岩戸神話、ヤマタノヲロチ神話、  
大国主神話

→タカミムスヒ系…国譲り神話、天孫降臨神話、海神宮訪問神話

→ヤマト王権の最高神はタカミムスヒ、7世紀末の律令国家形成期にアマテラスが最高神と  
なり、アマテラスを主神とした王権神話の一元化

⇒記紀神話形成過程の研究はこれを継承し、アマテラス系とタカミムスヒ系それぞれの形  
成過程を追究すべき

○本報告の課題

・記紀神話に日神（アマテラス）の神話はあるのに、月神（ツクヨミ）の神話がないのはな  
ぜか？

・アマテラス、ツクヨミ、スサノオは同時に出生、しかしツクヨミのみ神話がないのはなぜ  
か？

・アマテラス系神話形成過程の考察の一端として「スサノオとツクヨミ」に注目

## 1. 三貴子の誕生と神話

○アマテラス系神話の構成

①天地初発の神々

②イザナキ・イザナミ神話

国生み／万物の神々創成／黄泉国訪問／三貴子誕生

③アマテラス・スサノオ神話

天真名井のウケイ／天岩戸／ヤマタノヲロチ退治

④オオクニヌシ神話

兄神の虐待／根国訪問／ヌナカワヒメ妻訪／スセリビメの嫉妬／国作り

※②の黄泉国訪問と④は古事記になし

○三貴子誕生の様相

	アマテラス	ツクヨミ	スサノオ
古事記	禊ぎ 左目・高天原	右目・夜食国	鼻・海原→根国
書紀本文	出産 *・天上	*・日に配ぶ	*・根国
書紀第1	化生 手の白銅鏡・*	右手の白銅鏡・*	首を廻らす間・根国
書紀第2	出産 (日月既に生まれたまいぬ)		*・根国
書紀第6	禊ぎ 左目・高天原	右目・海原	鼻・天下→根国
書紀第11	* *・高天原	*・日に配ぶ	*・海原

⇒スサノオの位置づけは不自然…アマテラス・ツクヨミはセット、スサノオは付け足し

○なぜツクヨミの神話がないのか

→スサノオがツクヨミの性格を吸収したから…三谷栄一

→アマテラス系②アマテラス・スサノオ神話は日神・月神神話を基盤として形成されているのではないか

## 2. ウケモチ神話とアマテラス・スサノオ神話

○ツクヨミが活躍する唯一の神話

→ウケモチ神話＝書紀第5段第11の一書

既にして天照大神、天上に在しまして曰はく、「葦原中国に保食神有りと聞く。爾、月夜見尊、就（ゆ）きて候（み）よ」とのたまふ。月夜見尊、勅を受けて降ります。已に保食神の許（もと）に到りたまふ。保食神、乃ち首を廻して国に嚮ひしかば、口より飯出づ。又海に嚮ひしかば、鱗（はた）の広（ひろもの）・鱗（はた）の狭（さもの）、亦口より出づ。又山に嚮ひしかば、毛の麓（あらもの）・毛の柔（にこもの）、亦口より出づ。夫の品（くさぐさ）の物悉に備へて、百机に貯へて饗たてまつる。是の時に、月夜見尊、忿然（いか）り作色（おもほてり）して曰はく、「穢（けがらわ）しきかな、鄙（いや）しきかな、寧ぞ口より吐（たぐ）れる物を以て、敢へて我に養（あ）ふべけむ」とのたまひて、廻（すなは）ち剣を抜きて撃ち殺しつ。然して後に、復命して、具に其の事を言したまふ。時に天照大神、怒りますこと甚しくして曰はく、「汝は是悪しき神なり。相見じ」とのたまひて、乃ち月夜見尊と、一日一夜、隔て離れて住みたまふ。是の後に、天照大神、復天熊人を遣して往きて看しめたまふ。是の時に、保食神、実に已に死れり。唯し其の神の頂に、牛馬化為る有り。額の上に粟生れり。眉の上に蚕生れり。眼の中に稗生れり。腹の中に稻生れり。陰に麦及び大小豆生れり。天熊人、悉に取り持ちて去きて奉進（たてまつ）る。時に、天照大神喜びて曰はく、「是の物は、顕見（うつ）しき蒼生（あをひとくさ）の、食ひて活くべきものなり」とのたまひて、乃ち粟稗麦豆を以ては、陸田種子（はたつけつもの）とす。稻を以ては水田種子（たなつもの）

とす。又因りて天邑君を定む。即ち其の稲種を以て、始めて天狭田及び長田に殖う。其の秋の垂穎（たりほ）、八握（やつかほ）に莫莫然（しな）ひて、甚だ快し。又口の裏に蚕を含みて、便ち絲抽（いとひく）くこと得たり。此より始めて養蚕の道有り。

- ①天上のアマテラス、ツクヨミに地上（葦原中国）のウケモチ神を見てくるよう指示
- ②ツクヨミがウケモチ神のもとへ行くと、ウケモチ神は口から出した飯や山海の物でツクヨミを供応
- ③ツクヨミ、口から吐き出したものを食事に出すとは穢らわしいと怒り、剣でウケモチ神を殺害
- ④ツクヨミがこれをアマテラスに報告すると、アマテラスは怒って、ツクヨミとは一日一夜離れて住むこととなる
- ⑤その後アマテラス、アメノクマヒトを地上に派遣し様子を見ると、ウケモチ神の死体から牛・馬・粟・蚕・稗・稲・麦・大豆・小豆が化生していた
- ⑥アメノクマヒトがそれを取り持って天上のアマテラスに奉進、アマテラスは大いに喜び、これを人民の食糧にしようと宣言し、粟・稗・麦・豆を「陸田種子」、稲を「水田種子」とした。
- ⑦「天邑君」を定め、その稲種を天狭田・長田に植えると、秋には豊作であった。
- ⑧養蚕も行なわれるようになった。

→ハイヌウェレ型の穀物の起源神話、昼夜の起源神話

○ウケモチ神神話とアマテラス・スサノオ神話のモチーフの共通性

- 1) 日神との対立…一日一夜隔離／天岩戸籠り
- 2) 地上における殺戮…ウケモチ神／ヤマタノヲロチ
- 3) 地上から天上への器物奉進…五穀・牛馬等／草薙剣・八尺瓊勾玉

☆そして何よりもスサノオにもハイヌウェレ型神話

○スサノオのオオゲツヒメ殺害神話

- ①高天原を追放されたスサノオ、食べ物をオオゲツヒメに乞う
- ②オオゲツヒメ、鼻口尻より味物を出して進上
- ③スサノオ、穢らわしいと怒り、オオゲツヒメを殺す
- ④殺されたオオゲツヒメの死体から五穀が化生
- ⑤カムムスヒがこれを取らせて種とした

→古事記のみ、挿話的で文脈不明

☆アマテラス・スサノオ神話はウケモチ神神話のツクヨミをスサノオに置き換えて翻案されている

### 3. スサノオの原像

・スサノオ…根国の神、根国からの穀物や樹木の種を現世にもたらす来訪神

→根国＝水平的な他界 <ニライカナイ

・紀伊国有田郡の須佐神社が本来の奉斎地…出雲ではない

→5世紀のヤマト王権の宗教的世界観＝紀伊を他界との結節点とする水平的他界観

→④オオクニヌシ神話の根国訪問…オオナムチは紀伊から根国のスサノオのもとへ

☆スサノオの種をもたらす神の属性とウケモチ神神話の種の起源が習合  
→紀伊の海上彼方の阿波…他界の具現化 =粟の国、オオゲツヒメ（国生み神話）  
→古事記の大年神系譜（＝スサノオ後裔系譜）…地上世界の農耕の繁栄を表現

#### 4. 顕宗3年紀2月条・4月条とウケモチ神神話

○月神の登場する伝承…顕宗3年紀2月条・4月条

三年の春二月の丁巳の朔に、阿閉臣事代、命を銜（う）けて、出でて任那に使す。是に、月神、人に著（かか）りて謂りて曰はく、「我が祖高皇産霊、預（そ）ひて天地を鎔造せる功有します。民地を以て、我が月神に奉れ。若し請の依に我に献らば、福慶あらむ」とのたまふ。事代、是に由りて、京に還りて具に奏す。奉るに歌荒櫟田を以てす。歌荒櫟田は、山背国の葛野郡に在り。壹岐県主の先祖押見宿禰、祠に侍（つか）ふ。夏四月の丙辰の朔庚申に、日神、人に著りて、阿閉臣事代に謂りて曰はく、「磐余の田を以て、我が祖高皇産霊に献れ」とのたまふ。事代、便ち奏す。神の乞の依に田十四町を献る。対馬下県直、祠に侍ふ。

2月条 月神にウタアラス田を奉献 壹岐県主の祖押見宿禰が祠に侍す

4月条 日神の祖タカミムスヒにイワレ田を奉献 対馬下県直が祠に侍す

⇒ヤマト王権の新嘗用齋田の祭儀伝承

・ヤマト王権の新嘗…王権直轄地の屯田（ミタ）から卜定された齋田の稲。粟を大王が食して靈威を生成・再生

・ウタアラス田、イワレ田＝屯田

・タカミムスヒ＝王権新嘗の神

→大嘗祭の悠紀・主基齋田の傍らに祀られる御膳八神の中心はタカミムスヒ

→新嘗の齋田の傍らにもタカミムスヒ等の神が祀られる⇒本条の「祠」

→畿内のタカミムスヒ、アマテルミムスヒを祀る神社…新嘗齋田の祠を継承

⇒これら神社に近接して屯田が存在したのでは

①宇奈太理坐高御魂神社（大和国添上郡）

②他田坐天照御魂神社（大和国城上郡）

③鏡作坐天照御魂神社（大和国城下郡）

④目原坐高御魂神社（大和国十市郡）

⑤羽束師坐高御魂神社（山城国乙訓郡）

⑥木嶋坐天照御魂神社（山城国葛野郡）

⑦水主坐天照御魂神社（山城国久世郡）

⑧新屋坐天照御魂神社（摂津国嶋下郡）

・2月条：月神へのウタアラス田の献上

⇒畿内の月神を祀る神社にも近接して屯田が存在したのでは

⑨葛野坐月読神社（山城国葛野郡）

⑩樺井月神社（山城国綴喜郡）

◎畿内の屯田の分布

A 添の屯田…①      B 倭の屯田…②③④      C 乙訓の屯田…⑤      D 葛野の屯田…⑥⑨  
E 山背の屯田…⑦⑩      F 三嶋の屯田…⑧

[大和川水系グループ] A・B      [淀川水系グループ] C・D・E・F

⇒4 世紀以来ヤマト王権の基盤      ⇒6 世紀継体大王の勢力基盤

○月神（ツクヨミ）を祀る屯田

- ・山城国にのみ月読神社、月神社
- ・令制下、天皇供御料の稲・粟も官田（＝屯田）から、粟は山城国の官田が進上
- ・10 世紀の新嘗祭の事例で粟は山城国綴喜郡から

⇒⑨⑩に近接する屯田は粟作の屯田＝陸田の屯田では

高御魂神社、天照御魂神社に近接する屯田は稲作の屯田＝水田の屯田

☆日神…稲作／月神…粟作という観念があった

○ウケモチ神神話の伝承者

- ・山城国風土記逸文

山城の風土記に云はく、月読尊、天照大神の勅を受けて、豊葦原の中国に降りて、保食の神の許に到りましき。時に、一つの湯津桂の樹あり、月読尊、乃ち其の樹に倚りて立たましき。其の樹の有る所、今、桂の里と号く。

→山城国葛野郡桂里の地名起源にウケモチ神神話の断片

- ・ウケモチ神神話＝ハイスウェレ型 of 食物起源神話、東南アジア→中国→…

→伝承者は朝鮮語を話す人＝渡来人 …身体部位と化生する物の朝鮮語の音が対応

☆葛野郡の渡来人⇒秦氏であろう

→6 世紀後半～7 世紀初、葛野郡を開拓

○顕宗 3 年紀伝承の形成と伝承者

- ・顕宗 3 年紀伝承の不自然さ

→2 月条：月神に田地を奉獻    4 月条：日神の祖タカミムスヒに田地を奉獻

→日神・月神の神話にタカミムスヒをかぶせて形成

- ・ウタアラス田の祠の奉斎者＝壱岐県主、イワレ田の祠の奉斎者＝対馬下県直

→壱岐・対馬のト部の奉仕を解く

☆原形となる伝承の伝承者は壱岐・対馬のト部であろう

→6 世紀中葉、中臣氏の配下で亀トをもって王権祭祀に奉仕

→中臣氏の本拠地も摂津国三嶋郡、ト部氏も同郡や山城国葛野郡に分布

☆ウケモチ神神話の伝承者として秦氏あるいはト部氏が考えられる

### おわりに—垂直的他界観の王権神話形成とウケモチ神神話—

- ・6 世紀中葉の欽明朝…世襲王権の成立、国造制・部民制・ミヤケ制による地方支配の確立、  
大夫制・氏姓制による統治機構の確立、  
そして祭官制による王権祭祀体制の確立

⇒この中で記紀神話につながる王権神話の形成

- ・王権の宗教的世界観…5 世紀段階：水平的他界観→6 世紀段階：垂直的他界観

→垂直的他界観の神話の形成にウケモチ神神話の影響が大きいのでは

- ・ウケモチ神神話と原スサノオ神話により次の神話的世界観が形成された

天 上

|

地 上 — 根 国

→天上の主神：アマテラス 地上の主神：オオナムチ 根国の主神：スサノオ

#### 【参考文献】

- 菊地照夫「ヤマト王権の新嘗と屯田」『古代王権の宗教的世界観と出雲』同成社、2016年  
松前健「須佐之男命崇拜とその神話の形成」『日本神話の形成』塙書房、1970年  
三谷栄一「素戔鳴尊の性格」『古事記成立の研究』有精堂、1981年  
三谷栄一「国生み神話の特異性と意義」『古事記成立の研究』有精堂、1981年  
イェンゼン『殺された女神』弘文堂、1977年